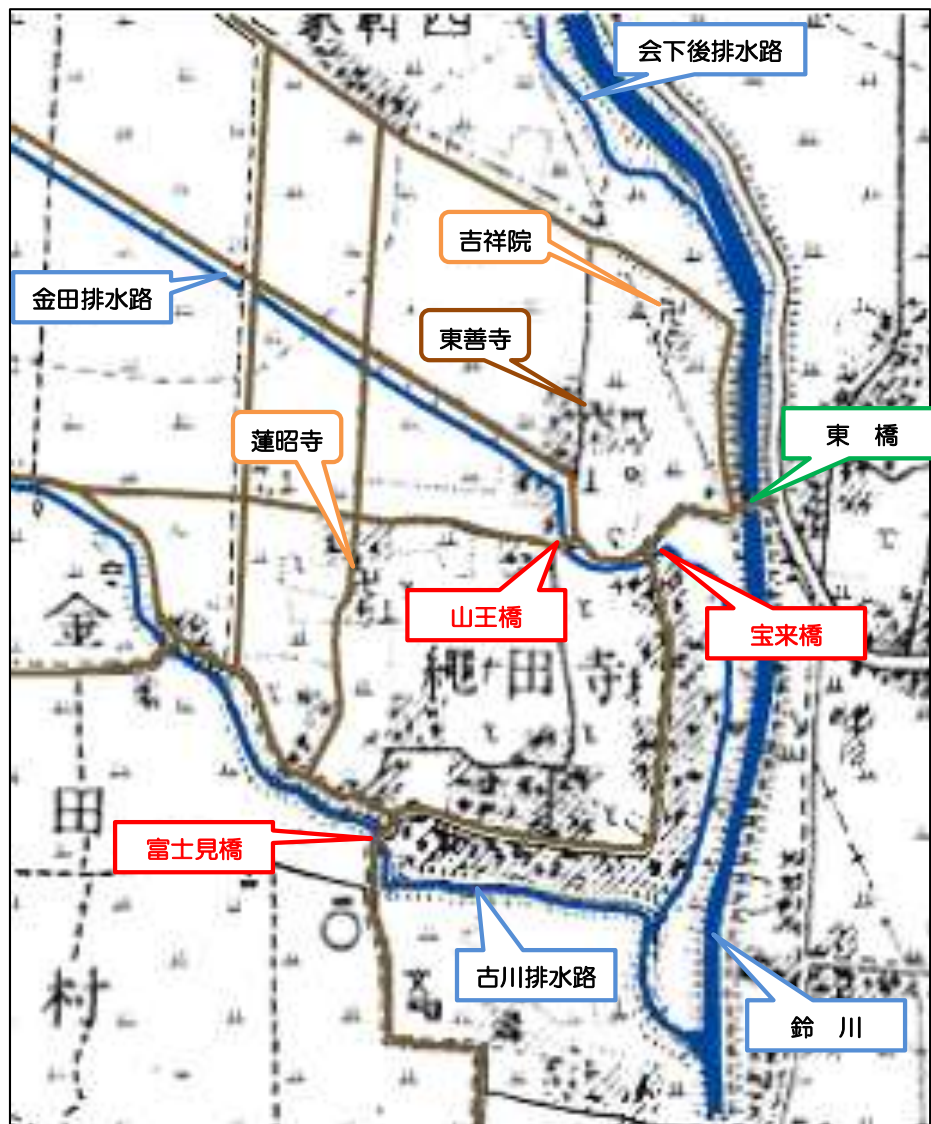


## 寺田縄地域の河川と橋（２） 富士見橋、山王橋、宝来橋

大正13年（1924）

（大正13年国土地理院発行地形図・改）



### ① 富士見橋

富士見橋は、古川排水路に架けられ、橋を渡り南方に進み、寺田縄と同じ金田地区の入野や長持地域を経て、秦野街道に続きます。

■ この道は現在「平塚市幹線長持寺田縄線」と云い、金田地区の中央を通り、古くから地区の南北をつなぐ道で、秦野街道に出れば平塚、秦野と結ぶことができます。

北に進むと鈴川を渡り、伊勢原方面へと繋がります。伊勢原への道は、「大山道」とも呼ばれ、大山を詣でる多くの参拝者の道になっていたこともあります。

南に進み相模湾の大磯に続く道でもありました。漁港として栄えた大磯からの新鮮な魚介類が、行商人によって運ばれてきました。「お刺身は朝食べるものと思っていた」と、寺田縄の人から聞きました。冷蔵庫のない時代、早朝運ばれた魚は保存がききません、朝の食卓に出されました。

今でも、蓮昭寺の門前に「天保二辛卯（1831）六月吉日 大磯南町 世話人中」と刻まれた手洗石（蓮昭寺にお参りするとき清水で手を清めるための石）が奉納安置されています。日蓮宗を信仰する大磯の信者さんからの寄贈です。

本来置かれていた元の場所は分かりませんが、吉祥院の門前に「天保十五辰年（1844）林鐘十八日造立」と刻まれた庚申塔が置かれています。塔の正面には「庚申塔 伊勢原 大山 四之宮」、左側には「此方 大磯道」、右側には「此方 金目 十日市場 小田原」と、道しるべ（道標）を兼ねた石塔です。大磯道へと導いています。

蓮昭寺は大磯への街道の至近の地に建立されていますし庚申塔も大磯街道を示しています。寺田縄と大磯とは同じ生活圏だったのでしょうか、双方の関係を知ることができます。

## ■ 東橋から富士見橋方面

東橋を渡り南に進み、「金田排水路」に架かる「宝来橋」を渡り寺田縄地域を取り囲むような「逆L字型の道路」を行きます。西に方向を転じて進み「富士見橋」を渡ると入野・長持方面へと続きます。

「逆L字型の道路」は江戸時代の絵図にも登場し、かなり古い時代から道として利用されていました。大正時代の地図によると、道路の内側の土地利用は中心部が空白と桑畑になっています。地形的には小高い丘でした。小田原北条氏の時代、寺田縄（当時は寺手縄と呼ばれていました）の領主布施氏の館（やかた）があったと伝えられるところで、「お屋敷跡」とも呼ばれ、この地は宅地や水田に利用されることはありませんでした。太い道路はこの地を避け、「逆L字型」になったと推察されます。

「富士見橋」は「古川排水路」を渡ります。水路は東へ流れ、南下してきた「金田排水」と合流し鈴川へ流れ込みます。

寺田縄地域の西、飯島方面への道は「富士見橋」を渡らずに「古川排水路」に沿って進み「三七起橋」（みなきばし）を渡ります。道は本郷道と呼ばれ、水田の広がりや西に直進しています。



■ 昭和39年 東海道新幹線が営業を開始し、寺田縄地域は大きな変貌を遂げました。新幹線は寺田縄地域を2分し、敷地がかかり移転する家々、金田小学校は水田を埋め立てた新しい土地に建設されました。道路も整備され、かつての「逆L字型道路」の角の部分は寺田縄の中心地を外れました。

その後、住宅、人口が増加し都市化のスピードが上がりました。



○ 富士見橋と古川農業排水路



白いガードレールのある「富士見橋」は「古川排水路」に架かっています。橋の向こうは入野地域です。橋の右手の平屋は「金田駐在所」、その手前は「富士見橋ポンプ場」の小屋です。その手前、橋の右手に水門が設置されています。



駐在所とポンプ小屋の間、遠くに富士山が見えます。富士見橋の命名の所以です。

橋の手前に青色のパイプが渡してあります。上水道のパイプです。中央部の装置はパイプの中に混入する空気を抜く仕組みです。



水道のパイプ、富士見橋、水門ゲートが並び、古川の水路は北方向から走り、視界を妨げる物がなく、くっきりとした大山を真正面に眺めることができます。



■ 富士見橋の北側、ポンプ場の水門です。写真は冬。仕切板が上げられています。水量は僅かです。

冬の金田一带は金目川の水量は減少し、水田耕作はなく、古川排水の水量も見ての通りです。

水門ゲート脇の取水口です。

きざまれたワラが付いていますが、昨年の秋、台風18号の大雨で古川排水路が満水になりました。水田から流れたワラが古川に流れ込み、障害となった水門にワラが残されました。



上流に広がる水田から古川に流れ落ちた排水は、ここでポンプアップされ、1kmほど先の金田小学校の西側まで運ばれます。

そこから入野地域の農業用水として活用されています。古川排水の水を用水とし再利用していることになります。



■ 古川排水は、富士見橋、ポンプ場を下り、東に進み金田排水と合流し鈴川に流れます。流入口には「古川樋門」（ふるかわひもん・堤防を潜り抜ける水門）と呼ばれる水門が設けられています。増水した鈴川の流れが古川に逆流することを防ぐ役割があります。

鈴川の上流地域での大雨が鈴川を増水させ、時には古川に逆流することもあります。事前に水門を閉じることによって、逆流を防ぐことができます。しかし、近年のゲリラ豪雨と呼ばれる集中豪雨では、鈴川、古川排水の両方の水量が一気に増し、鈴川は古川の水を吸収できず、古川排水路流域では浸水地域も生じました。

平成26年秋、台風18号は神奈川県に大雨、洪水、暴風、波浪警報がだされ、平塚市は10月4日から6日にかけて353.5mmの降水量を記録しました。（神奈川県防災情報）寺田縄地域でも土地の低い場所や、古川排水に流れ込む多くの水路では、収穫を終えた水田に刻まれたワラが流され、水路を塞ぎ、いたる所で道路の浸水がおきました。

## ■ 古川樋門 （ひもん）



古川排水が鈴川に流れ込む手前、「古川樋門」が設けられています。深さは3mほどある深い流れです。鈴川に流すため、鈴川の河床に合せた深さです。寺田縄地域や北隣の岡崎地域の農業排水、特に水田からの排水を処理する流れです。

この先に鈴川が流れます。最近の豪雨はこの空間を埋め尽くすほどの大量の流れとなりました。



右側が鈴川です。土手に架かる青色の金網フェンス、その先のポールが「古川樋門」になります。

左側のガードレールは鈴川の土手に沿って走るサイクリング道路を守ります。

「古川樋門」を鈴川側から見ています。ゲートが2枚、水門は開けられています。

冬です、古川も鈴川も水量はごくわずかです。



この右の茂みにカワセミを見ました。そばを通ったウォーキングの方が、場所を教えてくれ、「カワセミに会えたので今日はハッピー」と。カワセミは見る者の心を和やかにしてくれる天使のようです。

## ② 山王橋、宝来橋

大正10年の地図には、金田排水路に架かる橋として地図上に記されています。現在の地図には、山王橋がありません。



## ○ 山王橋

現在の地図を注意深く観察すると、この部分青色の点線で表現されています。この所で金田排水路が暗渠（あんきょ）となり、道路下に埋められた土管に排水を流しています。流れは宝来橋の下流で表面に出ます。

橋の北西部に「日枝神社」神社があります。江戸時代には「山王権現社」「山王社」と呼ばれていました。「山王橋」はこの名前にちなんで付けられました。

## ○ 宝来橋

「東橋」からの「平塚市幹道長持寺田縄線」と「寺田縄15号線」とが交わる地点にあります。かつては、金田排水路が流れ、「東橋」から寺田縄のメイン道路であった「逆L字型」の道路の起点となっていました。金田排水路の暗渠化と道路整備によって一見しては橋の姿が分かりません。寺田縄地域の中央部を流れる金田排水路に架かる橋です。

金田排水は南下して古川排水と合流します。

宝来橋を下流から見ています。護岸は確りとしています。水面からは2m程、かなり深い所を流れています。



さらに南に下っています。この辺りは鈴川とほぼ平行して流れています。







古川排水と金田排水との合流点です。

右手から金田排水、左手から古川排水です。

鈴川は合流後の流れに並行し、写真の右手に流れます。

古川樋門はこのすぐ下流になります。

## ■ 古川排水路と金田排水路の改修

鈴川の改修に合せ、流入する排水路も改修されました。工期は昭和62年12月から明くる年の3月までの予定で進められました。



古川排水路の改修工事の完成です。



金田排水路の宝来橋から鈴川に沿って、南下する部分の工事作業です。



重機が入り掘り進められています。作業員の大きさと比べ、掘り込みの深さが分かります。

遠くに東海道新幹線の高架が東西に鈴川を横切っています。開通にはあと2年ほどを残しています。



(写真は地元の方の提供です)